

さようなら平成



「平成」の時代が終わろうとしています。当時の小渕官房長官が「それは平成です…」と新しい年号を発表されているシーンを最近テレビでよく見ます。あの

時の小渕氏は決して「冷えたピザ」などではありませんでした。その瞬間に携わった誰の目にも焼け付き、期待を持って見守りました。

その当時の私は 27 歳で、京都で就職して 3 年目でした。事務所から和文タイプライターが完全に消滅し物置に追いやられていました。更に 80 万円ぐらいしていたワープロが小型化され個人で所有し始めていた頃です。それと並行して大きな企業ではなくとも仕事場にパソコンが普及し始めました。機械音痴の私も購入先のメーカーへ研修に行かされたのを覚え

ています。個人で初めてパソコンを購入したのもこの頃です。NECの

8000 シリーズです。パソコン通信をするためです。当時は「インターネット」ではなく「パソコン通信」です。『友引通信』と同じでアナログです。なんと！受話器に「音響カプラ」というパソコンのデジタル信号を音声信号に変換する機器を取り付けて通信をしていました。写真の通り今見たら笑ってしまいます。しかし、



昭和 64 年 1 月 7 日、仕事をしているふりをしてパソコン通信を見ていた私が職場の誰よりも早く「昭和天皇崩御」のニュースを知りました。思わず大声を上げてしまったので大ニュースと共に勤務中の私の悪行もバレてしまいました。自室に電話がないので私用のパソコンを職場に持ち込んでいたのです。

『友引通信』4 月号が皆さんのお手元に届く頃には新年号が発表されていることでしょう。それもワクワクいたしますが、私はそれよりも今の皇太子様が天皇になられた新年号の時代は世の中が明るくなるような予感がして楽しみにしています。「だから俊徳丸はオメデタイ！」と石が飛んできそうですが、もう何年も前からそう思っています。それは、今の皇太子様は歴代の皇族の方々の中でも最強の「祈る力」を生まれながらお持ちだと聞いたことがあるからです。神職でもあらせられる天皇陛下は、毎日午前 2 時(丑三つ時)に国民の幸せを祈って神事をされておられるそうです。平成は大きな自然災害が続いた 30 年でした。更にここ近年の世界情勢もきな臭い気配が続いて不安です。確かに天皇陛下は現在ご高齢で激務をこなされておられるのは「奇跡」だと思いますが、こんなご時世だからこそ、あえて今、最強の「祈る力」をお持ちの皇太子様にバトンを渡される決断をされたのだと感じます。

全く余談ですが、皇太子様は昭和 35 年 2 月 23 日のお生まれ。私は同年 7 月 3 日生。祈る力は弱いです。檀家さんごめんなさい。御存じ